

(2) 文化財の保存・継承と活用

【施策の目的】

全国に誇る島根固有の歴史・文化についての調査研究、保存・継承を進め、その魅力を県内外に積極的に発信し、歴史・文化を通じた人々の交流を促します。

【評価】

<前年度から評価実施年度上期までの成果と課題>

- ・島根の歴史・文化の魅力を伝える講座・シンポジウムは、会場参加に加えて動画配信も行い、オンラインで多くの参加があった。
- ・古代文化センターの研究成果である書籍「古代文化研究」などのウェブ公開を計画的に進めている。
- ・市町村や所有者が実施する文化財の保存修理、耐震化等を計画的に支援しているが、保存修理を要する文化財（建造物）が数多く残っている。
- ・小中学校、特別支援学校を対象とした体験活動や出前講座を行っているが、学校現場のニーズに十分対応したものになっていないものもあった。
- ・古代出雲歴史博物館については、企画展において作品選択や展示手法を工夫するとともに、展示に関連した講座や展示関連イベントを実施したことによって、入館者数は回復してきているが、出雲大社の入込客を十分にに取り込めていない。
- ・世界遺産石見銀山については、石見銀山と接点のある戦国武将を絡めた講演会を県外で開催し、多くの人々の関心を集めた。
- ・八雲立つ風土記の丘においては、電動アシスト自転車を利用して史跡周遊する来訪者の増加を図るため、周遊マップを作製したが、その周知が十分でなく、電動アシスト自転車の利用が増えていない。また、情報が古い解説板があり、多言語対応も不十分である。

<第2期島根創生計画初年度から評価実施年度上期までの複数年度にわたる成果と課題>

※上記で重複しない成果・課題を記載

この欄は複数年度にわたる成果と課題を記載するため令和9年度から記載

【今後の方向性】

①歴史文化遺産の調査研究と情報発信

県内外の幅広い年代の人々に島根の歴史・文化に関心を持ってもらうため、講座受講者等のアンケート結果を踏まえた研究成果の情報発信を行うほか、オンラインも活用した情報発信に継続的に取り組む。

②歴史文化遺産の保存・継承

文化財の保存状態等について市町村や所有者と情報共有し、中長期的な観点から、計画的に修理等が行われるよう支援していく。

③歴史文化遺産の活用

小中学校、特別支援学校を対象とした体験活動や出前講座については、ニーズをしっかりと取り取るため、アンケート内容を見直し、文化財への興味・関心が高まるよう、学校や児童生徒のニーズに即した学習内容・教材を提供する。

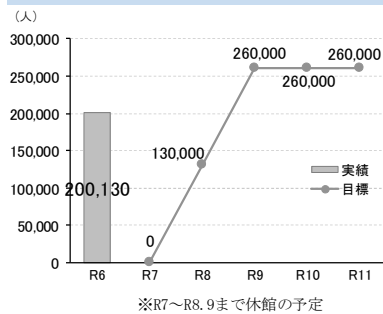
古代出雲歴史博物館については、出雲大社を訪れる個人客に対する情報発信を強化する。また、長期休館中であるため、リニューアルオープン後の入館者数の増加に向けた働きかけを各方面で行っていく。

世界遺産石見銀山について、幅広い世代の関心を引くような親しみやすい情報発信に努めるほか、令和9年の石見銀山発見500年に向けて、大田市や地元関係団体等と連携し、石見銀山の魅力化や持続化に向けた取組を進める。

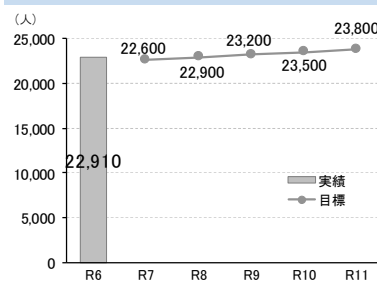
八雲立つ風土記の丘について、周遊マップの来訪者への積極的な配布により史跡の周遊を促すとともに、解説板の更新や多言語化等の環境整備を推進する。

【施策の主な KPI の状況】

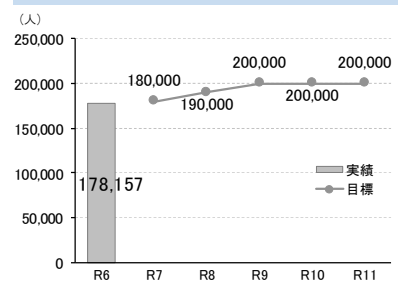
1) 古代出雲歴史博物館入館者数【当該年度4月～3月】※R7年4月～R8年9月は施設整備を実施



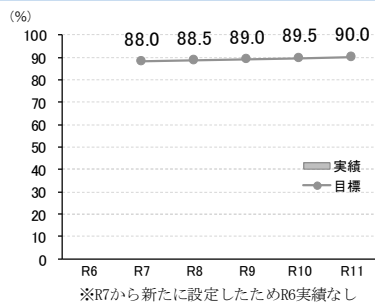
2) 八雲立つ風土記の丘展示学習館、ガイダンス山代の郷及び山代二子塚土層見学施設の入館者数【当該年度4月～3月】



3) 石見銀山資料館、龍源寺間歩及び石見銀山世界遺産センターの入込客延べ数【前年度1月～当該年度12月】



4) 子ども塾（小中学校の出前講座）でのアンケートにおいて、文化財への興味・関心が高まったと感じた児童生徒の割合【当該年度4月～3月】



施策の主なK P I

施策の名称	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用
-------	-----------------------

番号	K P I の名称	上段は目標値、下段は実績値					単位	計上分類	備考	
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度				令和11年度
1	古代出雲歴史博物館入館者数【当該年度4月～3月】※R7年4月～R8年9月は施設整備を実施		0.0	130,000.0	260,000.0	260,000.0	260,000.0	人	単年度値	
		200,130.0								
2	八雲立つ風土記の丘展示学習館、ガイダンス山代の郷及び山代二子塚土層見学施設の入館者数【当該年度4月～3月】		22,600.0	22,900.0	23,200.0	23,500.0	23,800.0	人	単年度値	
		22,910.0								
3	石見銀山資料館、龍源寺間歩及び石見銀山世界遺産センターの入込客延べ数【前年度1月～当該年度12月】		180,000.0	190,000.0	200,000.0	200,000.0	200,000.0	人	単年度値	
		178,157.0								
4	子ども塾(小中学校の出前講座)でのアンケートにおいて、文化財への興味・関心が高まったと感じた児童生徒の割合【当該年度4月～3月】		88.0	88.5	89.0	89.5	90.0	%	単年度値	
		-								
5										

(第2期島根創生計画に掲げる施策の【取組の方向】)

①歴史文化遺産の調査研究と情報発信

体系的な調査研究を進め、その成果を、展覧会や、県内外での講演会・オンライン配信などにより、広く情報発信します。

②歴史文化遺産の保存・継承

文化財の指定等により保護を図り、所有者等による計画的な保存修理や伝統文化の継承活動などを支援します。

③歴史文化遺産の活用

地域の文化財について、学校での学習や地域住民による利活用を促進するとともに、解説板の更新・多言語化等の環境整備や情報発信を推進します。

事務事業の一覧

施策の名称		VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	指定文化財等保護事務	県民、文化財所有者・保持団体	県民が郷土への愛着や誇りを持ち、文化財を将来にわたって確実に継承し、活用できるように地域総がかりで取り組む環境を整備する。	4,850	5,303	文化財課
2	歴史遺産保存整備事業	県民、文化財所有者・保持団体	文化財の損壊や滅失を防ぎ、将来へ確実に継承していく。	182,903	176,447	文化財課
3	八雲立つ風土記の丘事業	県民及び県外からの利用者	風土記の丘地内の史跡や文化財を通して県内の文化財への興味・関心を高め、文化財を身近なものと感じてもらう。	72,510	74,486	文化財課
4	古墳の丘古曾志公園事業	県民及び県外からの利用者	公園内の古墳に触れることで、島根の古代の歴史文化に親しみを持ってもらう。	8,557	8,431	文化財課
5	古代出雲歴史博物館管理運営事業	古代出雲歴史博物館の利用者及び県内外の人々	島根の歴史文化に関する研究成果の発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を発信し、理解してもらう。	534,318	690,700	文化財課
6	埋蔵文化財保護事務	県民及び開発事業者	開発に際し貴重な文化財が破壊あるいは消失しないよう、計画段階で必要な協議を行い、適切な対応が取られるようにする。	3,304	3,493	文化財課
7	文化財活用事業	県民	島根の歴史文化を学習する機会を積極的に提供し、ふるさとを誇りに思う心を醸成することで、児童生徒を含む県民の心の豊かさの向上に寄与する。	3,643	3,057	文化財課
8	埋蔵文化財調査センター事業	県民・公共事業者	開発事業地内の埋蔵文化財発掘調査を行い、その価値を明らかにし、調査で得た情報を県民に還元することで地域の埋蔵文化財への理解と興味関心を高める。	337,734	192,019	文化財課
9	古代文化の郷「出雲」整備事業	県内外の人々	八雲立つ風土記の丘地内の史跡等の魅力向上を図るとともに、出雲部に存在する多様な文化遺産をネットワーク化し、歴史探訪ルートを設定して、野外博物館として活用してもらう。	14,768	25,621	文化財課
10	未来に引き継ぐ石見銀山保全事業	県内外の人々	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、その価値や魅力についての情報発信による認知度の向上や、適切な保存整備を図ることで、確実に未来へ継承する。	73,851	96,397	文化財課
11	古代文化研究事業	県内外の人々	しまねの特色ある歴史・文化について、新たな視点から調査研究を行い、学術的基盤を構築する。研究成果を広く公開して、歴史・文化の魅力を向上させることを通じ、人々の交流を促す。	43,954	55,123	文化財課
12	島根の歴史文化活用推進事業	県内外の人々	しまねの豊かな歴史・文化の魅力を広く伝え、県民の郷土への愛着を養う。県外の方々には、しまねの歴史・文化に関心をもってもらうことで、人々の交流を促進する。	33,815	33,027	文化財課

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課	文化財課
-----	------

事務事業の名称		指定文化財等保護事務				
目的	誰(何)を対象として	県民、文化財所有者・保持団体		事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	県民が郷土への愛着や誇りを持ち、文化財を将来にわたって確実に継承し、活用できるように地域総がかりで取り組む環境を整備する。			うち一般財源 (千円)	4,850
令和7年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> ・島根県文化財保護審議会の開催 ・文化財保護法や島根県文化財保護条例等に基づく文化財の指定等事務 ・博物館法に基づく博物館の登録事務、銃砲刀剣類取締法に基づく銃砲刀剣類登録事務 ・島根県文化財保存活用大綱に基づく文化財の保存・継承・活用の推進 				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点		<ul style="list-style-type: none"> ・市町村や無形民俗文化財の保持団体等に対し、文化庁の補助事業(衣装等修理や公開支援など)を周知し、活用を促す。 ・国や県文化財保護審議会委員等の専門家による意見を踏まえ、市町村の文化財管理が適切に行われるよう支援する。 ・大綱の考え方を市町村と共有し、文化財保存活用地域計画作成中の市町村からの求めに応じ必要な助言、協力を行う。 				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	国・県指定等文化財の指定件数【当該年度4月～3月】	目標値			6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	件	単年度値
		実績値	7.0	2.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		令和6年度 文化財の指定等:【国指定】選定保存技術 玉鋼製造(たたら吹き)、【国登録】なし【県指定】有形文化財 大座西古墳群出土品 文化財保存活用地域計画:7市町(益田市、出雲市、津和野町、松江市、大田市、浜田市、美郷町)が策定済 文化庁の補助事業のうち地域伝統行事・民俗芸能等への補助にかかわるもの:衣装等修理(R5 2件14団体、R6 2件13団体)、公開支援(R5 1件、R6 1件)									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・県にとって重要な文化財が、国指定文化財に1件、県指定文化財に1件、それぞれ新規に指定された。 ・市町村や無形民俗文化財の保持団体等に対し、文化庁の補助事業を周知し、2件の活用実績があった。 ・文化財保存活用地域計画について、策定中の2市町へ支援を行い、認定となった。
課題分析	①課題	<ul style="list-style-type: none"> ・近代遺跡など、文化財の相対的な評価が定まらない等の理由により、指定の可否が判断できないものがある。 ・神楽等の無形民俗文化財の保持団体等の中には、技術やノウハウ等の継承が困難な団体がある。 ・市町村によっては、文化財の調査研究、保存・継承、活用が難しい状況にある。
	②原因	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財を相対的に評価する上で欠かせない、県全体を把握するための基礎的な調査が進んでいなかったため。 ・活動費用の不足や後継者不足等の状況が生じている。 ・文化財専門職員の未配置等により、専門的見地による文化財の管理が十分にできない。
	③方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の基礎的な調査を引き続き実施し、全体把握に努める。 ・市町村や無形民俗文化財の保持団体等に対し、引き続き文化庁の補助事業(衣装等修理、後継者養成など)を周知し、活用を促す。 ・国や県文化財保護審議会委員等の専門家による意見を踏まえ、市町村の文化財管理を支援する。 ・大綱の基本的な考え方を市町村と共有し、文化財保存活用地域計画を策定する市町村からの求めに応じ必要な助言、協力を行う。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課	文化財課
-----	------

事務事業の名称		歴史遺産保存整備事業				
目的	誰(何)を対象として	県民、文化財所有者・保持団体		事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	文化財の損壊や滅失を防ぎ、将来へ確実に継承していく			182,903	176,447
				うち一般財源 (千円)	130,450	137,452
令和7年度の 取組内容	・国及び県指定の文化財のうち、経年劣化や自然災害等により保存が危ぶまれるものや、技術等の伝承が危ぶまれるものについて、その修理や伝承等に要する経費の一部を助成する。					
令和6年度に行った 評価を踏まえて 見直したこと	市町村や所有者と情報共有を図り、概ね5年後までの事業見込を把握し、特に修理時期を迎える文化財については、計画的に修理が行えるよう調整を行う。					
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上 分類
1	国・県指定文化財(建造物)の保存修理が完了した件数【当該年度4月～3月】	目標値			12.0	14.0	16.0	18.0	20.0	件	累計値
		実績値	9.0	10.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべき データや客観的事実											

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 指定文化財を維持継承していくため、所有者や市町村と連携し、保存修理事業を計画的に進めている。 保存修理後は、建造物を一般向けに公開するなど、地域資源としても活用されている。 <p>令和6年度で完了した事業：県指定 多胡家表門保存修理事業 継続して実施している事業：重文 旧大社駅保存修理事業、重文 八幡宮保存修理事業、県指定 須佐神社本殿保存修理事業など</p>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 指定文化財の保存修理や耐震対策等を行う場合、所有者に多額の自己負担が生じる。 保存修理を要する文化財(建造物)が多数ある。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の保存修理は、その性質上、材料や工法が特殊なため、一般的な修理と比較して費用が高む。 経年劣化による建造物の保存修理のほか、耐震化工事を要するものがある。 <p>文化財の傷みが進行すると保存修理費用がさらに増大するため、随時、市町村、所有者、専門家で保存状態を情報共有し、適切な時期に修理が行われるよう、また、修理実施時に事業が円滑に進むよう市町村と連携し支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業スケジュールや内容について、市町村及び所有者と綿密な協議を行い、概ね5年後までの中長期的な事業計画を把握した上で、適切に事業実施ができるよう支援する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課	文化財課
-----	------

事務事業の名称		八雲立つ風土記の丘事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び県外からの利用者	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	風土記の丘地内の史跡や文化財を通して県内の文化財への興味・関心を高め、文化財を身近なものと感じてもらう。		うち一般財源 (千円)	72,510
令和7年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、SNS等を活用した情報発信、史跡音声ガイド端末や電動アシスト自転車の利用を促進する。 ・近隣学校及び公民館の行事受け入れ、イベントの開催、興味・関心を惹起するような展示会の開催。 ・展示内容の充実、複数ある施設の維持・管理・運営を行う。 ・郷土の歴史を深く学ぶため、年に12回講師を呼び講演会を開催するなどの普及事業を行う。 ・風土記の丘の魅力を広く発信し、県内外からの入館者数を増やす。 				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・風土記の丘の拠点施設としての機能を発揮するため、史跡マップを活用し、利用者に地内の周遊を促す。 				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	八雲立つ風土記の丘展示学習館、ガイダンス山代の郷及び山代二子塚土層見学施設の入館者数【当該年度4月～3月】	目標値			22,600.0	22,900.0	23,200.0	23,500.0	23,800.0	人	単年度値
		実績値	22,233.0	22,910.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		入館者推移①県内(R4 54%、R5 48%、R6 41%) ②初めての来場(R4 54%、R5 59%、R6年度 57%)、2～4回(R4 27%、R5 25%、R6 22%)、5回以上(R4 19%、R5 16%、R6 21%) ・企画展開催数(展示学習館(企画展6回18,836人)、ガイダンス山代の郷(ロビー展2回1,943人)、風土記の丘教室(432人)、こどもまつり(1,700人)、特別展開連イベント(807人)などを実施。Youtube(総再生回数50,983回(R7.6.5時点))									

3 現状に対する評価

課題分析	成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況 ・5月のこどもまつりに合わせ復元竪穴住居リニューアルの周知等により、来館者の増につながった。(5月の入館者数が前年度比17%増) ・10月に特別展開連イベントとして古墳巡りや移動動物園を行った。 ・大型古墳国史跡指定100周年関連イベントには、336名の参加があった。
	①課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために支障となっている点) ・周辺の史跡や文化財の魅力が県民に伝えきれていない。
	②原因	・周辺の史跡や文化財の情報発信が十分ではない。 上記①(課題)が発生している原因
③方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性 ・ホームページやSNSでの情報発信等により、八雲立つ風土記の丘が、地内のガイダンス機能を持つ拠点施設であることを引き続き周知し、来館者により一層、史跡に親しんでもらえるよう、史跡マップ、音声ガイド、電動自転車等の利用を促す。 ・近隣市町と連携したイベントを実施し、入館者の増加を図る。	

事務事業評価シート

1 事務事業の概要	担当課 文化財課
------------------	----------

事務事業の名称		古墳の丘古曾志公園事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び県外からの利用者	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	公園内の古墳に触れることで、島根の古代の歴史文化に親しみを持ってもらおう。		うち一般財源 (千円)	8,557
令和7年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全確保のために、施設の適切な維持管理を行う。 ・良好な利用環境確保のため、設備の修繕に努める。 ・地元公民館や埋蔵文化財調査センター等の協力を得て、各種イベントの開催や学校等への広報活動を積極的に行い、施設(史跡)への理解を深める。 				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点	階段等の修繕を行う。				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類	
1	古墳の丘古曾志公園事故発生件数【当該年度4月～3月】	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	件	単年度値	
		実績値	0.0	0.0								
		達成率	-	-	-	-	-	-	-			-
2		目標値										
		実績値										
		達成率	-	-	-	-	-	-	-	-	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・コスト縮減のため、教育機能を持った公園としての位置付けを平成19年度から変更して一般の公園として開放している。 ・指定管理者により園内は良好な環境に保たれているが、建築物・構造物・備品共に老朽化が進行している。 										

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	トイレ内の手洗い場の排水管用水漏れ、案内板表示板の修繕を行い、環境整備を行った。
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)に支障となっている点
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物や構造物の発錆劣化や音響機器の故障等、全般的に老朽化が進行している。 ・開園後30余年を経過 ・経費的な問題で抜本的な修繕が困難
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な園内の見回りや施設の保守点検により、利用者の安全確保を図る。 ・老朽化した個別施設、機器ごとに、安全性や費用対効果をふまえて今後の対応を検討する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課	文化財課
-----	------

事務事業の名称		古代出雲歴史博物館管理運営事業				
目的	誰(何)を対象として	古代出雲歴史博物館の利用者及び県内外の人々		事業費(千円)	令和6年度の実績額 534,318	令和7年度の当初予算額 690,700
	どういう状態を目指すのか	島根の歴史文化に関する研究成果の発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を発信し、理解してもらう。		うち一般財源(千円)	379,467	507,349
令和7年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度は、耐震改修工事等のため全期間休館。(休館期間:R7.4~R8.9(予定)) ・令和8年10月(予定)のリニューアルオープンに向け、円滑に工事を実施するとともに、展示施設のリニューアルを効果的に実施し、リニューアルオープン後の入館者の満足度向上につなげる。 ・休館中も講義室や体験学習棟などの一部施設は利用可能なため、学芸員による講座やアテンダントによるミニイベント、夏祭りなど各種イベント等を実施。また、県内の学校に向けて「ミュージアム・スクール」の情報発信を行い、休館中の利用促進やリニューアルオープン後の継続利用につなげる。 ・県内外での情報発信を活発に実施し、当館の認知度を高め、リニューアルオープン後の入館者数の増につなげる。 ・休館中に当館の国宝青銅器実物展示を行う出雲市の荒神谷博物館と連携し当館の認知度を高めリニューアルオープン後の入館者数の増につなげる。 				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと		<ul style="list-style-type: none"> ・出雲大社を訪れる個人客・マイカー客を取り込むため、引き続きInstagram、フェイスブック等のSNSでの広報・宣伝活動を実施。 ・休館中に実施する魅力アップ事業の内容を検討した。また、新たなSNSの活用など、リニューアルオープン後の入館者数を増やすため、情報発信等を検討した。 				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	古代出雲歴史博物館入館者数【当該年度4月~3月】※R7年4月~R8年9月は施設整備を実施	目標値			0.0	130,000.0	260,000.0	260,000.0	260,000.0	人	単年度値
		実績値	179,036.0	200,130.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・出雲大社の入込客:(コロナ禍前)600万人程度、(令和2年度)約400万人、(令和5年度)約711万人と大きく回復 ・入館者数:(平成30年度)24万人、(令和2年度)約9万人と大きく落ち込むも(令和6年度)20万人台に回復 ・修学旅行等の学校団体利用:(平成30年度)86校、4,466人、(令和3年度)266校、14,896人、(令和4年度)170校、10,099人、(令和5年度)81校、5,275人、(令和6年度)73校、4,381人 ・観覧料収入は(平成30年度)72,936千円、(令和6年度)77,010千円とコロナ禍前以上に増収。増収の要因は、団体客の減少・個人客の増加による客単価の上昇によるものと考えられる。 									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展の内容により、当時の人々の具体的な生活の様子が分かるように作品選択や展示手法を工夫した。また、弥生青銅器、城、甲冑、刀剣など注目されやすい関連作品を展示することにより、企画展観覧者の増加に努めた。 ・令和7年4月から令和8年9月(予定)まで長期休館に入ることを踏まえ、入館者数を増やすための誘客営業とあわせ、休館を周知することにより、リニューアルオープン後の来館につなげていく取組を行った。 ・展示関連講座を9回(779人聴講)、その他の講座を2回(84人聴講)、展示関連イベントを3回(59人参加)、実施した。
課題分析	①課題	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲大社入込客数は大きく回復したが、当館の入館者数は令和6年度においてもコロナ禍前(H30)の8割程度であり、引き続き出雲大社の入込客の取り込みが課題である。 ・これは募集型団体旅行客の減少が大きいのが、一方個人有料の来館者は(平成30年度)122,028人に対し、(令和6年度)136,897人と大きく上回っており、観覧料収入もコロナ禍前の水準となっている。 ・常設展の展示が、児童生徒の社会科学習で利用しづらい内容となっている。
	②原因	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲大社の入込客は、団体客が減少し、マイカー・レンタカー等の車利用の個人客が増加するなど、コロナ禍を経て客層が変化している。 ・展示室の展示が、社会科学習に沿った通史方式になっていない。
	③方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲大社を訪れる個人客に対し、X(旧ツイッター)の特徴を利用した情報発信を強化する。 ・マイカー客の割合が高くなったことから、道の駅、主要SA・PA等交通拠点での誘客、出雲大社入込客を取り込むための誘客を積極的に実施する。 ・長期休館中の展示内容の魅力アップ事業の中で、社会科学習に沿った通史方式に展示内容を改修する。 ・リニューアルオープン後の入館者数の増加に向けた働きかけを各方面で続けていく。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課	文化財課
-----	------

事務事業の名称		埋蔵文化財保護事務			
目的	誰(何)を対象として	県民及び開発事業者	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	開発に際し貴重な文化財が破壊あるいは消失しないよう、計画段階で必要な協議を行い、適切な対応が取られるようにする		うち一般財源 (千円)	3,304
令和7年度の取組内容	・埋蔵文化財の保護に必要な措置を図るため、土地の開発に際して文化財保護法に基づく審査を実施 ・埋蔵文化財発掘調査を実施する市町村に対し、必要に応じた技術的支援・指導の実施 ・遺跡の内容に応じた保存方法等、取扱に関する協議 ・遺跡台帳・リスト・GIS情報の最新化と周知				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・遺跡台帳確認の年次計画を作成し、関係機関と情報を共有することとした。 ・開発事業に係る最初の窓口である市町村に対して、担当者会議等の場を活用し、改めて開発事業者への周知徹底を依頼することとした。				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	県内における遺跡の位置情報の更新割合【当該年度3月時点】	目標値			53.0	61.0	69.0	77.0	85.0	%	累計値
		実績値	40.0	45.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・土地の開発に際して文化財保護法に基づく審査を実施した件数149件 ・市町村からの依頼に応じて技術的支援・指導を実施 ・遺跡の取り扱いに関する協議を実施した件数20件									

3 現状に対する評価

課題分析	成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・遺跡情報を管理している統合型GISの操作担当者を増やした。 ・遺跡台帳における遺跡情報について、市町村と連携することで、更新の作業効率を上げた。
	①課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	・遺跡リストの基となる遺跡台帳の確認と、県統合型GISへの反映作業が滞っている。
	②原因	上記①(課題)が発生している原因	・関係機関でのタイムリーな情報共有が十分にできていない。
	③方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	・遺跡台帳確認の年次計画を作成し、関係機関と連携して着実に更新作業を進める。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		文化財活用事業			
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	島根の歴史文化を学習する機会を積極的に提供し、ふるさとを誇りに思ふ心を醸成することで、児童生徒を含む県民の心の豊かさの向上に寄与する。		うち一般財源 (千円)	3,643
令和7年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 心に残る文化財子ども塾：県内の小中学校及び特別支援学校を対象とした古代体験活動や遺跡見学等の出前事業 いにしえ倶楽部：子どもや子育て世代を対象とした、まが玉作りなどの体験及び一般を対象とした座学講座 県内の主要な山城を県HPで紹介し、現地の解説板に設置したQRコードからアクセスできるようにする。 				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点	子ども塾について、学習指導要領に則した学習メニューを提供できるよう努めることとした。				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	子ども塾(小中学校の出前講座)でのアンケートにおいて、文化財への興味・関心が高まったと感じた児童生徒の割合【当該年度4月～3月】	目標値			88.0	88.5	89.0	89.5	90.0	%	単年度値
		実績値	—	—							
		達成率	—	—	—	—	—	—	—		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	—	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		「心に残る文化財子ども塾」の実施状況：(令和元年度)応募28校、計画25校、実施25校 (令和2年度)応募25校、計画25校、実施22校(コロナで3校辞退) (令和3年度)応募30校、計画28校、実施28校 (令和4年度)応募46校、計画28校、実施28校 (令和5年度)応募45校、計画28校、実施28校 (令和6年度)応募38校、計画28校、実施28校									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 古墳を紹介したパンフレットを作成し、県内外に広く周知した。 古墳に関する様々な講演会や講座を実施した。また、古墳見学イベントには児童生徒を含む1400名以上の参加者を得た。 県内文化財の活用事例を紹介した『文化財活用のススメ』を文化財所有者・管理団体、社会教育施設、公民館・観光協会等に配布した。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 県民が自ら文化財を学び、利活用する事例が少ない。 体験活動や出前授業について、学校現場のニーズを十分に把握できていない。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 県民が文化財を利活用するための情報や接触機会が少ない。 満足度を正確に把握するための手段に乏しい。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、県民に対して歴史文化を学習できる機会を提供する。 歴史文化の情報に触れやすくするため、解説板の整備等を順次実施し、デジタル化を進める。 『文化財活用のススメ』の案内や周知を行い、文化財の利活用を促進する。 アンケート内容を見直し、学校や児童生徒のニーズに即した学習内容・教材を提供する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		埋蔵文化財調査センター事業			
目的	誰(何)を対象として	県民・公共事業者	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	開発事業地内の埋蔵文化財発掘調査を行い、その価値を明らかにし、調査で得た情報を県民に還元することで地域の埋蔵文化財への理解と興味関心を高める。		うち一般財源 (千円)	337,734
令和7年度の取組内容	・国や県などが行う公共事業予定地の埋蔵文化財調査(分布・試掘調査、発掘調査)を実施する。 ・発掘調査で出土した遺物を埋蔵文化財調査センターにて適切に保管し、有効に活用できるよう管理する。 ・しまねの埋蔵文化財への理解を深めてもらうために、発掘調査の現地公開を行い、調査成果や文化財関連事業について広く発信する。				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点	・発掘調査の適切かつ円滑な遂行のため、国や県など関係機関との協議の場を増やし、県内の開発事業における短・中期的な工事計画を共有した。				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	発掘調査件数に対する現地公開の割合【当該年度4月～3月】	目標値			100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	%	単年度値
		実績値	100.0	100.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		発掘調査の現地公開とは、本発掘調査において、期間中に現地説明会等を実施し県民にその成果を公表すること。 ・令和6年度本調査 4事業5現場(大橋川河川改修2、江の川河川改修1、浜田道四車線化1、学術調査事業1)									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・発掘調査の成果について、現地公開やパンフレットの作成・配布を行い、広く情報発信した。 ※ 発掘調査を実施した松江、浜田、江津の3市5遺跡で現地公開を行い、約180名の参加を得た。 ※ 『ドキ土器まいぶん(Web版)No.4』を埋蔵文化財調査センターHP上で公開し、発掘調査成果を広く周知した。 ※ 『シリーズしまねの遺跡発掘調査パンフレット14 船津遺跡』を公民館等に配布した。 ※ 江津市内で講演会を開催し、船津遺跡の発掘調査成果について発信した。	
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	・現地公開に対する事業者の理解と日程調整の時間を要する。
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因	・河川改修や山陰自動車道などの大規模な開発事業において、事業や工期の進捗率によっては日程調整が困難な場合があるため。
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	・引き続き国や県など関係機関と現地公開の重要性について情報共有し、緊密な連携を図る。 ・現地公開が開催不可の場合は、公民館等での速報展や広報チラシを配布するなどの代替措置をとる。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		古代文化の郷「出雲」整備事業				
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々		事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	八雲立つ風土記の丘地内の史跡等の魅力向上を図るとともに、出雲部に存在する多様な文化遺産をネットワーク化し、歴史探訪ルートを設定して、野外博物館として活用してもらう			うち一般財源 (千円)	14,768
令和7年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> 八雲立つ風土記の丘を代表する史跡である出雲国府跡については、今後の整備活用を図るために発掘調査を実施する。 八雲立つ風土記の丘地内の史跡パンフレットを作成し、史跡の周知と活用を図る。 八雲立つ風土記の丘地内に設置した史跡の解説板を多言語化し、海外からの史跡来訪者の理解を深める。 レンタサイクルと音声ガイドの貸し出しを行い、来訪者の史跡周遊を促す。 				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点		<ul style="list-style-type: none"> 八雲立つ風土記の丘展示学習館周辺の史跡について、来訪者の周遊を促す取組を行う。 大人向けの取組に偏らないよう、引き続き子供も興味関心を持てる取組を行う。 八雲立つ風土記の丘地内の解説板について、最新の情報を踏まえた分かりやすい内容に更新する。 				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	文化財活用度(出雲地域の代表的な史跡等(松江城など8か所)の来訪者数)【当該年度4月～3月】	目標値			623,000.0	627,000.0	631,000.0	635,000.0	639,000.0	人	単年度値
		実績値	618,185.0	702,329.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> KPIの該当史跡等は、松江城、佐太神社、出雲玉作資料館、安来市歴史民俗資料館、加茂岩倉遺跡、出雲弥生の森博物館、荒神谷博物館、鱒淵寺の8か所 出雲国府跡の発掘調査を実施し、史跡の整備活用に必要な情報を得た。 八雲立つ風土記の丘地内に設置した史跡の解説板を更新し、来訪者の史跡についての理解を図った。 									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 大型古墳史跡指定100周年記念事業を契機として風土記の丘等を訪れた子供たちに対し、古墳の理解を図るために史跡巡りパンフレット「古墳へGO」を配布した。 音声ガイドや電動アシスト自転車を利用する来訪者の増加を図るため、風土記の丘地内の周遊マップを作成・印刷し、配布した。 	
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点 	<ul style="list-style-type: none"> 展示学習館などの施設から周辺の史跡への周遊に繋がる、電動アシスト自転車の利用実績が伸び悩んでいる。 八雲立つ風土記の丘地内の解説板の情報が最新ではないことや、多言語対応が不十分である。
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> 八雲立つ風土記の丘地内には史跡等が多く散在しており、電動アシスト自転車等の利用が必要だが、自転車を利用した周遊に便利な地図等があることの周知が十分でない。 八雲立つ風土記の丘地内の解説板の情報更新ができていない。
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 八雲立つ風土記の丘地内の展示施設から史跡への来訪に便利な周遊マップを配布し、史跡周遊を促す。 引き続き、八雲立つ風土記の丘地内の解説板を最新に更新するとともに多言語化を図る。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		未来に引き継ぐ石見銀山保全事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、その価値や魅力についての情報発信による認知度の向上や、適切な保存整備を図ることで、確実に未来へ継承する		うち一般財源 (千円)	73,851
令和7年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 石見銀山の価値を高める基礎調査研究(考古学・歴史民俗学・自然科学)、及び石見銀山が世界経済や国内鉱山開発に与えた影響に関するテーマ別研究を実施する。 大田市や関係機関と連携し、史跡等の保存整備や安全対策事業への支援を行う。 報告書の刊行や講演会等の開催により、調査研究成果の県内外への発信を行う。 令和9年の石見銀山発見500年に向けて、石見銀山の「魅力化」「持続化」に向けた取組を進める。 				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> 史跡等の保存整備が進むよう、大田市や文化庁等との協議を定期的に行った。 調査研究の成果を発信する企画展や講座等について、多くの人の興味関心を引くよう、戦国武将を絡めた内容にするなど工夫した。 若者世代を含め、多くの人に石見銀山を知ってもらうため、タレントを起用した石見銀山の紹介動画を作成し、県のHPで公開した。 				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	石見銀山資料館、龍源寺間歩及び石見銀山世界遺産センターの入込客延べ数【前年度1月～当該年度12月】	目標値			180,000.0	190,000.0	200,000.0	200,000.0	200,000.0	人	単年度値
		実績値	161,360.0	178,157.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2	講座等での参加者アンケートにおいて石見銀山遺跡への興味・関心が高まったと感じた人の割合【当該年度4月～3月】	目標値			96.0	96.5	97.0	97.5	98.0	%	単年度値
		実績値	96.0	88.9							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産石見銀山の首都圏での認知度(しまねの観光認知度調査)は、R3年度32.1%、R4年度33.2%、R5年度33.4%、R6年度29.1%と推移 令和6年度世界遺産講演会参加者421人 									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究により、石見銀山最盛期の石造物群の詳細を把握できた。 史跡地内(5カ所)、伝統的建造物群保存地区内(7カ所)の保存整備や安全対策が進んだ。 石見銀山と接点のある戦国武将を絡めた講演会を5年ぶりに県外で開催し、多くの人の関心を集めた。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 上記①(課題)が発生している原因
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 登録時の世界遺産委員会の要請に対応するよう、学術的な調査研究を継続して行う必要がある。 史跡等の保存整備に際して、所有者や関係機関等との調整に時間を要する。 学術的な調査研究を推進しつつ、その成果について、引き続き幅広い世代の関心を引くような親しみやすい情報発信に努める。 史跡等の保存整備について、今後の計画を共有するなど所有者や関係機関等との連携を進め、支援を継続していく。 令和9年の石見銀山発見500年に向けて、石見銀山の「魅力化」や「持続化」の取組を大田市等と連携して進める。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		古代文化研究事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	しまねの特色ある歴史・文化について、新たな視点から調査研究を行い、学術的基盤を構築する。研究成果を広く公開して、歴史・文化の魅力向上を促し、人々の交流を促す。		うち一般財源 (千円)	43,954
令和7年度の取組内容		(1)企画運営委員会(古代文化センターの調査研究事業にかかる有識者会議) (2)古代文化基礎研究事業 特色ある島根の歴史文化に関する基礎研究。①考古基礎資料調査研究 ②風土記調査研究 ③中世・近世史料の多角的研究 ④祭礼行事調査研究 ⑤隠岐に残る文化財の特質に関する多角的研究 (3)古代文化研究事業(テーマ研究) 基礎研究をもとに、外部研究員を交え、およそ3年間の研究後に歴博で企画展を実施 (4)調査研究成果の情報発信事業 ①『古代文化研究』、『しまねの古代文化』、テーマ研究報告書等の刊行 ②『古代文化研究』バックナンバーのWEB公開			
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと		・研究事業成果の刊行物である『古代文化研究』掲載論文の計画的なWEB公開 ・『古代文化研究』掲載論文の利用促進を図るため、古代文化センター独自のHP(以下、ポータルサイト)の充実化を実施			
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	古代文化研究事業の成果としてHPで公表した論文の閲覧回数【当該年度4月～3月】	目標値			9,500.0	9,550.0	9,600.0	9,650.0	9,700.0	回	単年度値
		実績値	9,493.0	9,443.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・令和6年度は、『古代文化研究』33号(論文数15)のほか、『しまねの古代文化』32号(論文数6)、テーマ研究論集『島根県域における弥生社会の総合的研究』(論文数15)・『中世山陰の戦争と地域社会』(論文数22)、調査研究報告書『島根県西川津遺跡出土品2』、『出雲国風土記』の計6冊を刊行した。									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・令和6年度刊行の『古代文化研究』33号では、考古学6本、古代史(風土記の書誌学的研究を含む)4本、近世史2本、民俗学1本、美術史学1本、博物館学1本と、多分野にわたる計15本の論文を掲載している。 ・さらに『古代文化研究』バックナンバーの島根県HP上でのWEB公開を継続している。 ・また一般の方々に関心をもってもらうため、ポータルサイトのコンテンツや講座・シンポジウムなどを通じ、現在取り組んでいる研究の成果を、わかりやすく伝えるよう引き続き努めている。
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性
		・『古代文化研究』バックナンバーの島根県HP上でのWEB公開ページが閲覧者にとってアクセスしやすいものとなっている。 ・『古代文化研究』バックナンバーの島根県HP上でのWEB公開ページ2つを整理し、閲覧者が混乱しないよう工夫するとともに、島根の歴史・文化に興味関心をもつ方がアクセスすることの多いポータルサイト上で容易に閲覧できるようにする。 ・調査研究成果は、一般向けの刊行物(ガイドブックなど)や講演会・オンライン配信(ポータルサイト)などに反映させ、わかりやすく伝えていく。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課	文化財課
-----	------

事務事業の名称		島根の歴史文化活用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	しまねの豊かな歴史・文化の魅力を広く伝え、県民の郷土への愛着を養う。県外の方々には、しまねの歴史・文化に関心をもってもらうことで、人々の交流を促進する。		うち一般財源 (千円)	33,815
令和7年度の取組内容		(1)県民参加型事業(講座) ①島根の歴史文化講座(松江) ②隠岐国巡回講座 ③石見国巡回講座 (2)県外における情報発信 ①古代出雲文化シンポジウム(オンライン) ②しまねの古代文化連続講座(オンライン)+しまねの古代文化探訪バスツアー ③島根の日本遺産に関する情報発信 (3)他県との連携事業 ①古代歴史文化に関する共同調査研究(古代歴史文化にゆかりの深い県との連携)			
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと		・県民参加型事業(講座)は、講座に加え、町歩きや展示解説を行い、多様な形態で開催 ・シンポジウムや講座、バスツアーで「島根の山城」を取り上げ、来訪動機を喚起 ・歴史文化に関心のある新たなファン層を獲得するため、動画やSNSを定期的に配信			
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	III-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	講座等での参加者アンケートにおいて島根の歴史・文化への興味・関心が高まったと感じた人の割合【当該年度4月～3月】	目標値			88.0	88.5	89.0	89.5	90.0	%	単年度値
		実績値	-	-							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		講座・シンポジウム参加者数内訳 R5 総数319,917名 うち会場1,747名(0.5%)、オンライン318,170名(99.5%) R6 総数 27,076名 うち会場1,879名(6.9%)、オンライン 25,197名(93.1%)									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・講座やシンポジウムについては「しまごだチャンネル」で動画配信し、会場参加の10倍以上にあたる約25,000名がオンラインで視聴した。 ・首都圏で開催した講座では、開始前に石見地域の歴史・文化を紹介する映像や講座内容と関連する「しまごだチャンネル」をスクリーンで上映し、参加者が島根県の歴史・文化に一層興味をもってもらえるようにした。 ・首都圏で開催したシンポジウムでは、島根県内の古墳を講師が案内する映像を流し、アンケート回答者の95.8%が満足と評価し、「島根県に行ってみよう」という回答も92.2%を占め、島根県への来訪希望者を増やすことができた。 ・首都圏在住者を対象としたバスツアーを万葉集編1回、古墳編2回の計3回実施し、いずれも15名以上が参加した。さらに参加者にアンケートを実施し、島根の歴史・文化に対するニーズの把握を行った。	
課題分析	①課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	・青銅器や古墳、出雲神話や出雲国風土記、それらとかがわかる出雲大社に対する興味関心は高い一方、それ以外の島根県の歴史・文化については、あまり興味関心がもたれていない。
	②原因	上記①(課題)が発生している原因	・島根県の歴史・文化の魅力を伝えるために、講座やシンポジウムを開催しているが、参加者が一定程度見込めるのは青銅器や古墳、風土記や神話、神社といったテーマで偏りがみられる。
	③方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	・参加者アンケートの回答内容を精査し、上記以外のテーマでも興味関心があるものを抽出し、それにかかわる講座などを開催することで、島根県の歴史・文化の魅力を広く発信する。 ・また、出雲だけでなく、石見や隠岐の歴史・文化を取り上げた講座も行い、島根県全域の歴史・文化の魅力を県内外に発信する。 ・講座やシンポジウムのオンライン配信の継続に加え、調査研究成果に基づく一般向けパンフレットなどを刊行することで、県内外を問わず、島根の歴史・文化の情報発信を行う。

